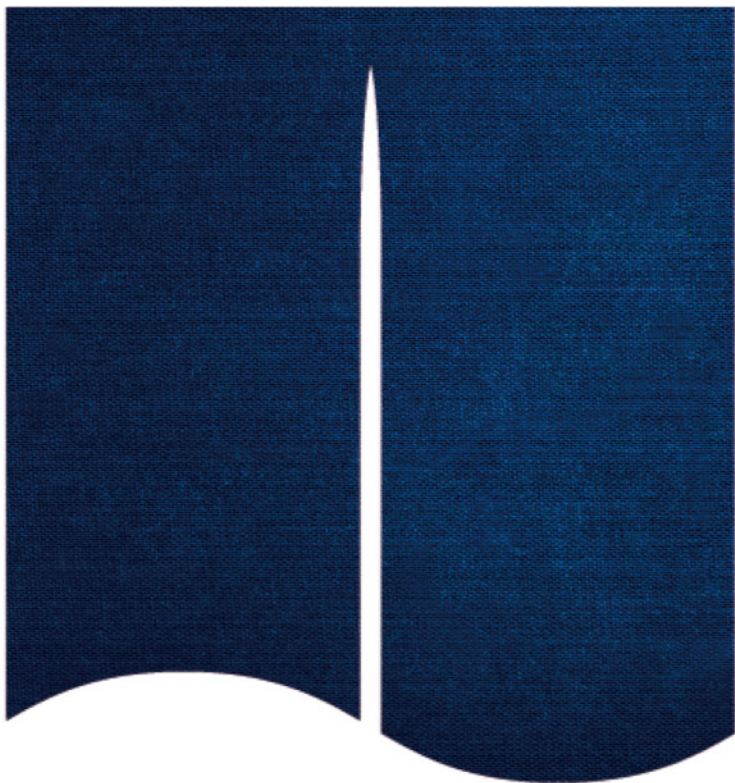


ベンチャーキャピタルと出資



Future Venture Capital

- 1 ベンチャーキャピタルとは
- 2 ベンチャーキャピタルからの投資と銀行からの融資
- 3 ベンチャーキャピタルの活用法



1.ベンチャーキャピタルとは

ベンチャーキャピタルとは

1. ベンチャーキャピタルとは、上場を目指すベンチャー企業に投資を行い株式を引き受け、上場（もしくはM&A）後に株式を売却することでリターン（利益）を得るビジネス

ベンチャーキャピタルとは

1. ベンチャーキャピタルとは、上場を目指すベンチャー企業に投資を行い株式を引き受け、上場（もしくはM&A）後に株式を売却することでリターン（利益）を得るビジネス
2. 投資後は、投資先のハンズオン（成長を促進するための支援）を通じて、経営相談やアドバイス、販路拡大、経営会議への参加、社外取締役の就任、アライアンスや採用支援など様々なサポートを行い、上場に向けて支援する



2 ベンチャーキャピタルからの 投資と銀行からの融資

融資：貸し手と借り手の間を金融機関（銀行・信用金庫等）が仲介して間接的に資金を調達



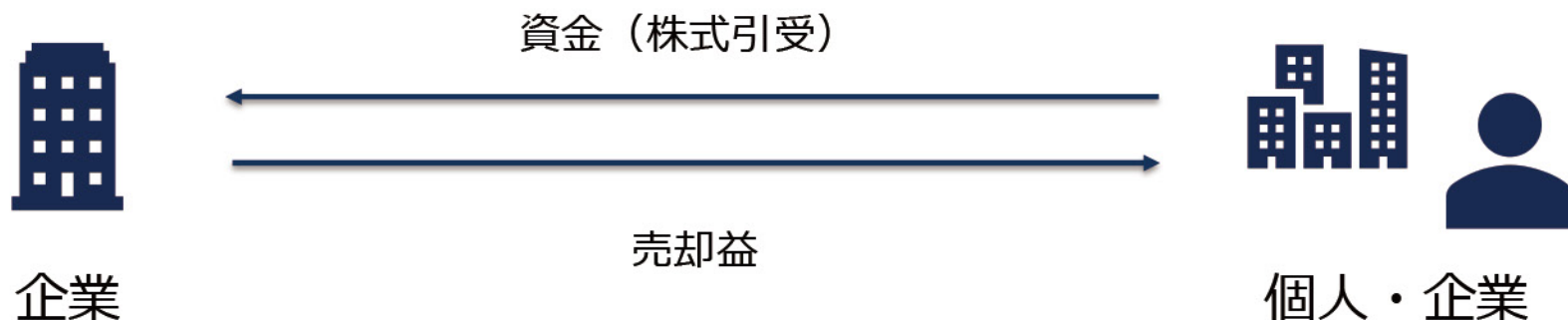
金融機関が仲介、一定期間決められた時期に返済が必要
また企業と預金者の関係は間接的

融資：貸し手と借り手の間を金融機関（銀行・信用金庫等）が仲介して間接的に資金を調達



金融機関が仲介、一定期間決められた時期に返済が必要
また企業と預金者の関係は間接的

投資：借り手が貸し手から直接的に資金を調達



基本的には返済不要だが、株式売却によるリターンを目指す
また出資者と企業の関係は直接的

投資のポイント1 投資判断と企業価値

企業価値の設定が投資判断に大きく影響する

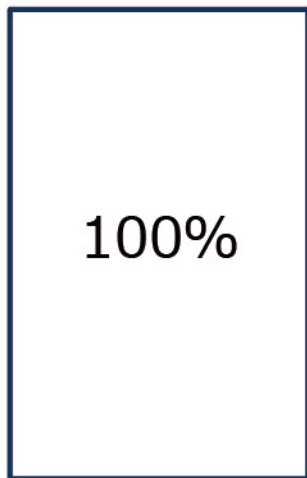
投資のポイント1 投資判断と企業価値

企業価値の設定が投資判断に大きく影響する

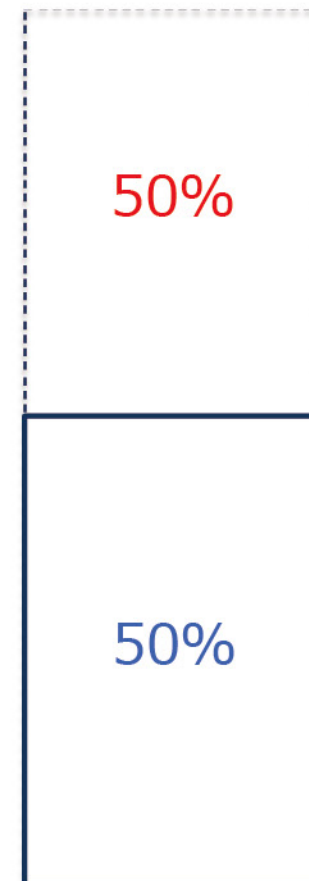
企業価値

2,000万

1,000万



1,000万投資すると…



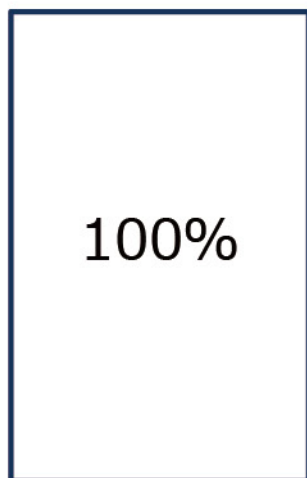
投資のポイント1 投資判断と企業価値

企業価値の設定が投資判断に大きく影響する

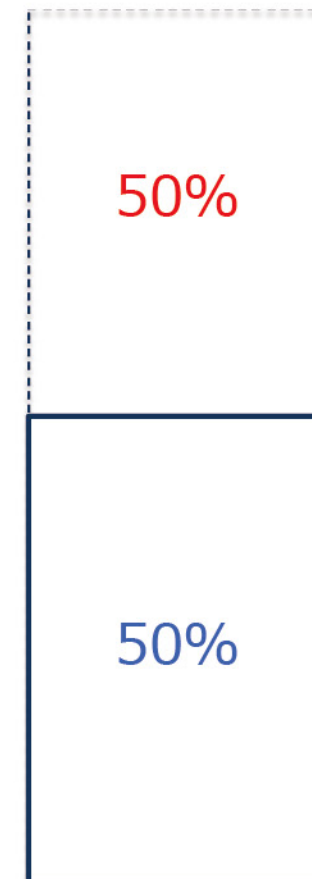
企業価値

2,000万

1,000万



1,000万投資すると...



資金調達したい金額と株式比率の**バランス**が大事

融資と出資における評価ポイントの違い

融資で求められるもの

「返済できるかどうか」

→返済計画や実績が大事

融資と出資における評価ポイントの違い

融資で求められるもの

「返済できるかどうか」

→返済計画や実績が大事

出資で求められるもの

「成長するかどうか」

→事業計画や将来性、その根拠

「共感」 「感動」 を得る事業かどうか



**情報の非対称性が
競争力を生む**



情報の非対称性があるうち
に参入障壁を高くして
ローンチ

IT化による
情報革命



**情報の非対称性が解消され、
競争力がなくなる**

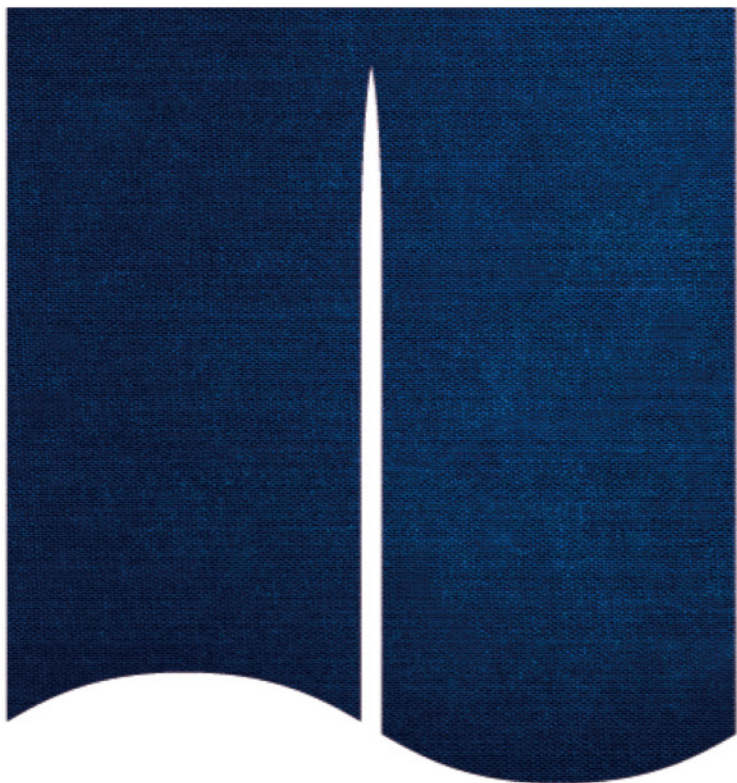


アイデアをオープンにし、それ
に共感するプレイヤーと協業し、
早めのローンチ。ローンチ後は
マーケットのフィードバックと
ともに完成度を高めていく。

「共感」「感動」を得る事業かどうか



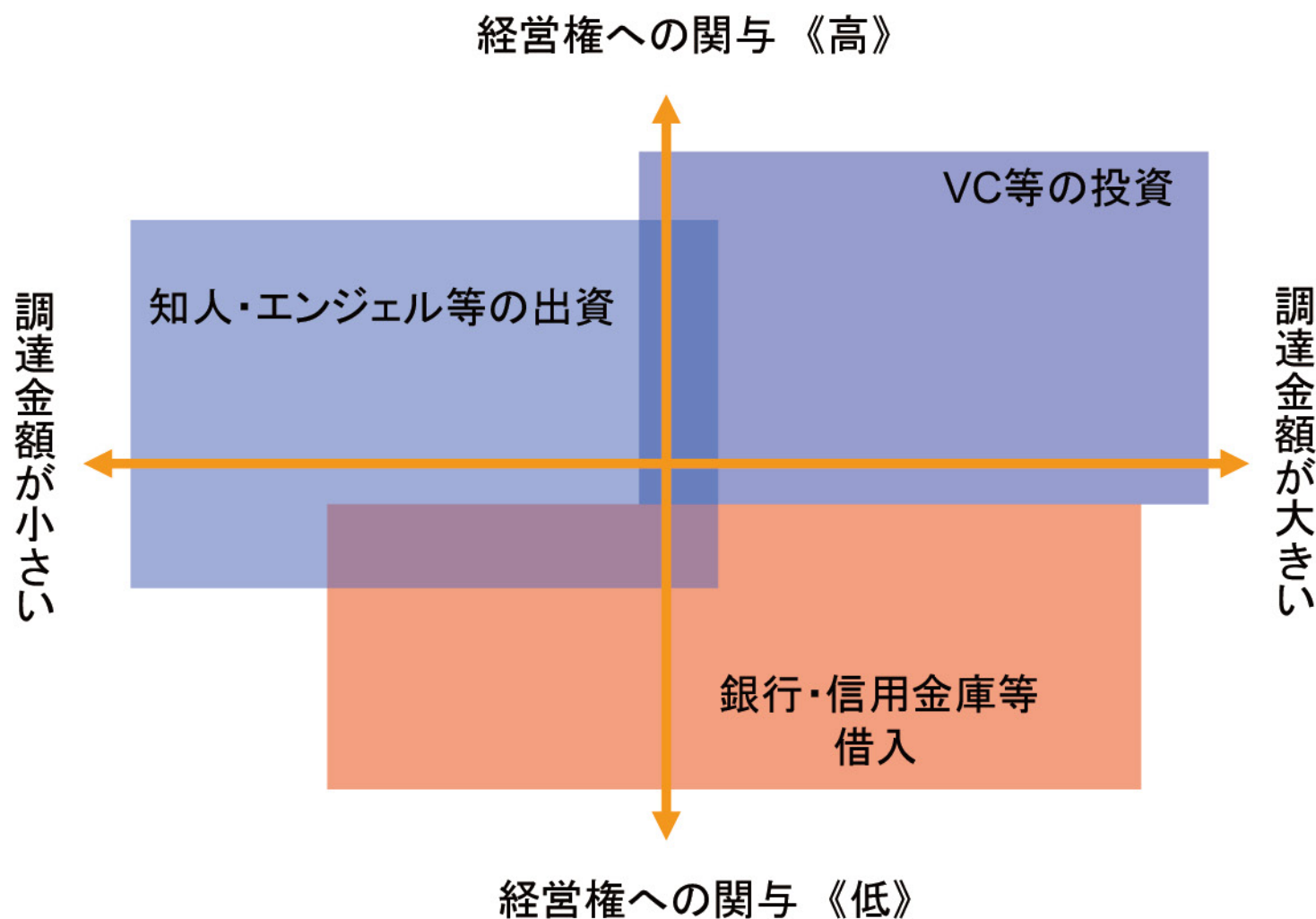
- ✓ 経営者の思いが強い、モチベーションが高い、あきらめない
- ✓ 人を巻き込める、金銭欲求ではなく自己実現欲求の強い優秀な人材が採用できる
- ✓ 商品・サービスができる支援者があらゆるチャネル、媒体で広めてくれるため、営業コストが抑えられる
- ✓ 「モノ売り」ではなく「コト売り」になるため、高い価格設定が可能



3.ベンチャーキャピタルの活用法

投資を受けるメリット2

資金調達方法を選択する際の大きなポイントとして、調達資金の規模と経営権への影響についても考慮する必要があります。



投資を受けるメリット3

1. 経営課題を解決する仲間として活用できる

→ 「人」についてキャピタリストに相談し解決を図る

投資を受けるメリット3

1. 経営課題を解決する仲間として活用できる

→「人」についてキャピタリストに相談し解決を図る

2. キャピタリストのバックボーンを活用できる

→金融機関や事業会社出身、もしくは起業経験者など
様々なバックボーンを持つキャピタリストがいるので、
経営者の悩みや将来の課題に対応できる

投資を受けるメリット3

1. 経営課題を解決する仲間として活用できる

→「人」についてキャピタリストに相談し解決を図る

2. キャピタリストのバックボーンを活用できる

→金融機関や事業会社出身、もしくは起業経験者など
様々なバックボーンを持つキャピタリストがいるので、
経営者の悩みや将来の課題に対応できる

ベンチャーキャピタルを**最大限活用**していく